

= CAMPUS LIFE = 課外活動紹介

「アクションサークル-Act-」

岩手大学には「アクトマン」というヒーローがいるらしい……。ヒーローを演じ、殺陣を楽しむアクションサークルにお話を伺いました！

私が取材をしました！

i-Connect社員
人文社会科学部2年
村田 紘基 さん



「ツキノワグマ研究会」

全国的にも珍しいツキノワグマ研究会。どんな活動をしていて、なぜツキノワグマについて調べているのでしょうか。2023年には啓発イベントを開催し活躍の幅を広げるサークルの謎多き活動内容に迫ります。

私が取材をしました！

i-Connect社員
理工学部2年
高橋 佑輔 さん



Q アクションサークル -Act- はどんなサークルですか？

A 映画や時代劇で行われるアクションや殺陣(注)を基礎から練習して楽しむサークルです。主な活動として、殺陣動画の制作や、キャラクターショーやイベントのお手伝いをしています。

Q 安達さんが入部したきっかけは？

A 高校時代から映像作品で俳優が演じる殺陣やアクションに魅力を感じていました。進学した岩手大学に実際にその演技ができるサークルがあると知り入部しました。



練習の様子

Q サークルの魅力を教えてください。

A サークルメンバー以外の人たちとの交流もあるので、さまざまな年齢や職業の方々とのコミュニケーションや礼儀などを身につけられます。また、イベントのお手伝いでは、それぞれに与えられた役割を果たし、演技をしなければなりません。そのようなプレッシャーのなかで、一人ひとりが活動を楽しみながら人間として成長できると思っています。

Q 活動をするにあたって大変だったことは？

A 部長になったとき、先輩が少ない状況でサークル活動を運営するのが大変でした。練習内容を練り直したり、自分のアクションの技術を磨き上げたりと努力しました。

Q 2024年はどのような活動をしていきたいですか？

A 不來方祭では毎年、オリジナルヒーローショー「岩手大学非公認部隊アクトマン」を上演し好評をいただいています。現在はすでに経験を積んでいるメンバーが多いので、2024年はこれまで以上に面白く迫力のある悪役やヒーローを演出できるよう、自分たちの演技を磨いていきたいと思っています。



岩手大学非公認部隊「アクトマン」

Q 未来のメンバーにひと言！

A アクションに馴染みのない人も多いと思いますが、このサークルでしかできない様々な経験がありますし、なによりアクションはカッコいいです。演技やアクションに興味のある方、体を動かすのが好きな方の入部をお待ちしています！

インタビューを通して、アクションサークル -Act- の皆さんの活動への熱い想いを知ることができました。i-Connectメンバーも今後の活動に期待しています！

(注) たて。チャンバラや格闘の演技のこと。

●取材に協力してくれた人
代表 農学部 食料生産環境学科
2年 安達 陽亮さん(群馬県立太田東高等学校出身)



Q ツキノワグマ研究会はどんな活動をしていますか？

A 主に盛岡市の猪去地区で、クマの調査(踏査)と被害対策の活動をしています。調査では、フンや痕跡、クマが好きな木の木の作況を調べています。被害対策では、農園にセンサーカメラを設置して約2週間おきに確認する、動物が近づかないよう地区の方と年に3回草刈りをする、年に1回報告会を開くといった活動があります。



クマ調査の様子①

Q 活動で面白いこと、大変なことは何ですか？

A クマのフンが食べたものによって全然違うことは面白いです。例えばクワの実を食べるとフンはジャムみたいになり、いい匂いがします。クマは元々肉食系の動物で、植物性の食べ物を分解しきれないんです。大変なことを強いて言うなら、フンは一時的に自分の家の冷凍庫に保存するので、どんどん埋まっていくことでしょうか。

Q ツキノワグマ研究会の魅力は何でしょうか？

A 悩みを抱えた地区の人々と長く関わり、私たちが調べた情報を共有することによって、少しでも野生動物の被害が減ることです。加えて、クマはキャッチーなキャラクターとして使われることも多いのですが、意外と知らないことも多いので、そんなことを発見できることも魅力かなと思います。



クマ調査の様子②

Q 今後のツキノワグマ研究会の目標は何ですか？

A 1つは、啓発活動を通して、多くの方々にクマのことを知ってもらい、クマとの人身事故や被害を減らす一助になることです。2023年には「クマ展」を初めて行いました。大変でしたが、意外とクマに関心を持ってくださる一般の方も多かったです。2023年は人身事故が多く起きたので、2024年も継続して取り組みたいと考えています。もう1つは、猪去地区で野生動物の被害を軽減できるように活動していくことです。近年増えているイノシシやシカなどにもアプローチしていきたいと思っています。



イオンモール盛岡(前湯)にて開催したクマ展の様子

取材で見えたのは、野生動物への対策から地域課題の解決を図るという側面でした。自然に触れてみたい方だけでなく、地域の役に立ちたい方も、ぜひこのサークルを調べてみてはいかがでしょうか？

●取材に協力してくれた人
代表 農学部 森林科学科
2年 山口 祥太さん(宮城県仙台南高等学校出身)



知って
欲しい!

賢治も学んだ

“農業教育資料館”の魅力

私が取材をしました!

i-Connect社員
人文社会科学部4年 北田 工 さん



岩手大学にある特徴的な建物の一つに農業教育資料館があります。この建物は、かつて宮澤賢治も学んだ盛岡高等農林学校の本館として使われていました。今回は、農業教育資料館の魅力を紹介します! 本資料館は学外の方も見学していただけます。詳細はHP (<https://www.iwate-u.ac.jp/academics/facility/hmae.html>) をご覧ください。

農業教育資料館紹介ページ▶



明治後期を代表する建築物

岩手大学農学部の前身である盛岡高等農林学校に関連する資料等を保管・展示している農業教育資料館は、青森ヒバを用いた明治後期を代表する木造二階建ての欧風建築物です。明治期の形を伝える国立専門学校の中心施設として現存する数少ない遺構の一つとして国の重要文化財に指定され、現在、1階は展示室、2階は大講堂となっています。1912年から1949年までは盛岡高等農林学校の本館として使用されていました。その後1973年までは岩手大学の本部でしたが、1974年に本部が移転した後、改修を経て1978年から農業教育資料館として現在に至っています。



展示物紹介

■ 大時計

建物の入口に入って真っ先に目を引くのが大時計です。スイス系時計会社コロン商会が組み立て販売したもので、1908年に購入されて以来100年以上の時を刻んできました。時計の機械部分はフランス製で、壮麗な装飾がされた時計ケースは日本製です。



■ 実験台と学生机

盛岡高等農林学校時代に使用されていた実験台と学生机です。学生時代の賢治もこの机や実験台で学修に臨んでいたと考えると非常に感慨深いですね。



■ 農産加工品ラベル

写真は、盛岡高等農林学校の学生たちが実習も兼ねて製造・販売した農産加工品に使用されていたラベルです。ここで展示されているラベルの一部は、現在販売中の岩手大学オリジナル・クリアファイルのデザインにも使用されています!



■ 大講堂

2階に上がると、そこには広々とした大講堂が待っています。ここには、賢治在学中に据えられたピアノや卒業生の集合写真、歴代校長の肖像画などが展示されています。また、この講堂は現在でも卒業式や講演会などの会場として利用されることがあります。



■ 旧校長室

この部屋に入って最初に目に入るのが丸テーブルの会議机とアンティークな椅子、そして奥に目をやれば風格ある校長の机と椅子が見えてきます。壁面の掛け軸は歴代校長が書いた作品です。また、校長用の机の真向かいには貴重な書誌や寄贈図書などが納められている書棚も設置されています。



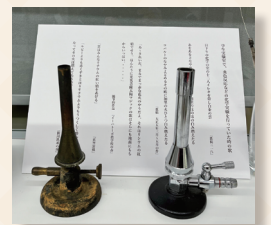
■ ポランの間

ここでは、映像と音声による館内案内を視聴したり、賢治の童話などを読んだりすることができます。案内動画を視聴したうえで館内を巡ると、より一層理解が深まります。壁面には岩手山を題材にした風景画も掛けられているので、背の高い椅子に座ってこの油絵を鑑賞しながら休憩するのも良いかもしれませんね。



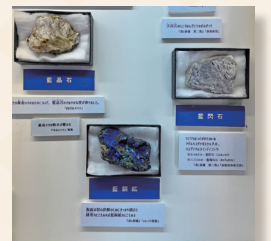
■ ブンゼン燈

ブンゼン燈とは、ガスの流れにより無加圧の一次空気を吸引させる構造のガスバーナーのことです。現在も理科の化学実験等で使用されることがあるので、学校の理科室で実物を見たり使ったりしたことがある人もいるでしょう。このガスバーナーは賢治在学時にも授業の化学実験で使用されており、賢治の作品にもたびたび登場しています。例えば、歌稿『516』には「六月のブンゼン燈のよわほのほはなれて見やる ぶなのひらめき」という歌が収録されています。



■ 「石っこ賢さん」と関豊太郎教授

賢治の研究に大きな影響を与えた関豊太郎教授は著名な土壌学者です。小学校の頃から石が大好きで「石っこ賢さん」と呼ばれていた賢治は、関教授の研究室「地質及土壌学教室」によく出入りして、教授が購入した岩石鉱物標本や岩石薄片標本などを観察していました(写真は岩石鉱物標本の一部)。賢治の書いた童話『グスコブドリの伝記』に登場するクーボー大博士のモデルは関教授とも言われています。



■ 旧正門・門番所

農学部の敷地内には農業教育資料館と同じく国の重要文化財に指定されている旧正門と門番所があります。門番所は「寄せ棟風八角」の造りで、建築文化にとって価値のある明治期の建物です。門番所は植物園の雰囲気とも非常にマッチしていて、どことなく幻想的な印象を抱かれます。農業教育資料館の見学にお越しの際にはぜひ立ち寄ってみてください。



研究紹介

対音資料を用いた中国語音研究



人文社会科学部
准教授 鋤田 智彦

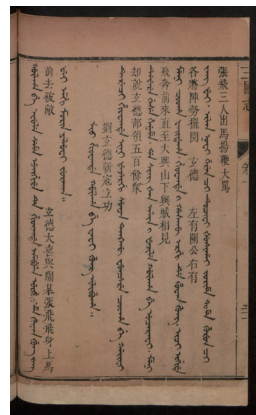
周りの言葉から中国語を見る

私が現在主に取り組んでいるのは中国語における音の変化についての研究です。どのような言語でも時代によって少しずつ変化しますが、それをどのようにして知ることができるのでしょうか。いくつかある方法のうち、私自身はある言語を別の言語で記した対音資料を手がかりに研究を進めています。中国最後の王朝である清は満洲人が作った王朝であり、満洲人は中国語と異なる満洲語を話していました。彼らは積極的に中国文化を取り込もうとし、『論語』『孟子』などの思想書はもちろん、『三国志演義』『水滸伝』などの歴史を題材とした小説なども満洲語に翻訳しました。それらに現れる中国由来の人名などは中国語の音に

基づき満洲字表記されます。そのような満洲資料に見られる表記を手がかりに当時の中国語音を知ろうというわけです。

満洲資料からわかること

ここでは一つ具体的に「経」という字について述べます。この字は現代標準中国語ではjingと発音されますが、明代以前にはgingと発音されていたと考えられています。つまりあるときにgingからjingへと変化したわけです。これがいつのこと



出典：Staatsbibliothek zu Berlin 所蔵 ilan gurun i bithe (『満文三国志』合璧本)
https://content.staatsbibliothek-berlin.de/dms/PPN334_6157776/1200/0/00000103.jpg

であったかについては、中国語音史上大きな問題であり、これについて満洲資料を見ると興味深い状況が確認できます。『三国志演義』を満洲語に翻訳した『満文三国志』(1650年序)では「王経」という人物をwang jing

と満洲文字で記し、「経」が現代標準語と同じような変化を起こしていたように見受けられます。一方でそれより後に作られた字音書『清書対音協字』(17世紀末ころ)では「経」をjingと示しています。これは一体どういうことでしょうか。これについては、『満文三国志』と『清書対音協字』に基づいた漢字音の地域が異なるためと考えることができます。『満文三国志』ができたのは清が明を滅ぼして間もない頃で、元となった漢字音はそれ以前に満洲人が活動していた現在の中国東北部の方言の影響を受けたものでした。一方で『清書対音協字』は明を滅ぼしてしばらく経ったころに北京の支配者層の間で使われていた言葉に基づいており、そこではまだそのような変化が起こっていなかったというわけです。このように、表音文字である満洲文字による記録を見ることにより、より客観的に中国語音を知ることができるというわけなのです。



瀋陽故宮「崇政殿」扁額 (執筆者撮影)

研究紹介

岩手大学農学部
共同獣医学科紹介動画



糖ヌクレオチド輸送体の機能異常がもたらす疾患群 —新しい疾患概念の確立に向けて—



農学部共同獣医学科
教授 古市 達哉

私はマウスの遺伝子を人為的に操作することで、その遺伝子の生体内の動きや遺伝子の変異によって起きる疾患のメカニズムについて研究しています。今回は「糖ヌクレオチド輸送体」という分子に関する研究成果について紹介します。

糖ヌクレオチド輸送体の機能

糖鎖はタンパク質、DNA・ゲノムに続く第三の生命鎖と呼ばれており、大きな注目を浴びています。糖鎖は単糖が鎖状につながった分子であり、糖転移酵素によって単糖が一つずつ付加されることによって伸長していきます。この時、糖転移酵素に単糖を供与している分子、つまり糖鎖の元となっている分子が糖ヌクレオチドです。ほとんどの糖ヌクレオチドは細胞質で合成され、糖ヌクレオチド輸送体によって糖鎖合成の場である小胞体とゴルジ体の内腔へ輸送されます。糖ヌクレオチド輸送体はSLC35ファミリー遺伝子にコードされ、ヒトゲノムには31種のSLC35遺伝子が同定されています。私はこれまでに2種類のSLC35遺伝子を破壊したマウス(KOマウス)の作製と解析を行って

きました。

ヒト蝸牛病骨盤異形成症の原因遺伝子：SLC35D1

SLC35D1は小胞体膜に発現する糖ヌクレオチド輸送体であり、UDPというヌクレオチドを結合する糖ヌクレオチド全般を小胞体内腔へ輸送します。私たちが理化学研究所で作製したSLC35D1-KOマウスは著しく小型化し、出生直後に死亡しました(図1)。このマウスの軟骨組織の糖鎖分析を行った結果、コンドロイチン硫酸という糖鎖の含量が著しく低下しており、これが小型化の主な原因であることがわかりました。一方、私たちはSLC35D1-KOマウスに認められた骨格異常がヒトの遺伝病である蝸牛用骨盤異形成症に認められる異常と類似していることに着目しました。世界中から蝸牛用骨盤異形成症患者のDNAを集めてSLC35D1遺伝子を検査した結果、すべての患者に変異が見つかり、SLC35D1はこの疾患の原因遺伝子であることが証明されました。

マウス外観(出生直後) ヒト蝸牛様骨盤異形成症



図1 SLC35D1の機能異常がもたらす病態

ウシ複合脊椎形成不全症の原因遺伝子：SLC35A3

SLC35A3はゴルジ体膜に発現する糖ヌクレオチド輸送体であり、主にUDP-N-アセチルグルコサミンという糖ヌクレオチドをゴルジ体内腔へ輸送します。複合脊椎形成不全症はホルスタイン牛に発症する致死性の遺伝病であり、発症牛の遺伝子解析から、SLC35A3が原因遺伝子として報告されていました。しかし、SLC35A3-KOマウスは未報告だったので、岩手大学にて作製した結果、ウシと同様に重度の脊椎形成不全が認められ、出生後、数時間内に死亡しました(図2)。このマウスの糖鎖分析の結果、コンドロイチン硫酸、ヘパラン硫酸といった糖鎖が減少しており、脊椎形成時に重要な細胞内のNotchシグナルに異常があることが示唆されました。

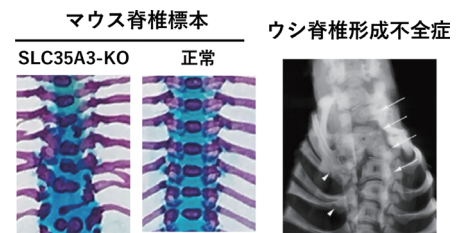


図2 SLC35A3の機能異常がもたらす病態

31種のSLC35遺伝子のうち、KOマウスが作製されているのは5遺伝子、ヒト疾患の原因遺伝子として報告されているので6遺伝子だけです。残された遺伝子のKOマウスを作製するための準備を進めており、「糖ヌクレオチド輸送体機能異常疾患群」という新しい疾患概念の確立を夢見て、これからも研究を展開していきます。

センパイ紹介

Alumni Interview

PROFILE

なとう わかな
内藤 若菜 さん

小学校教諭

岩手県盛岡市生まれ
令和5年3月 教育学部学校教育教員養成課程・保健体育サブコース 卒業
久慈市立久慈小学校 教諭



Q1 印象に残っている学生時代の思い出を教えてください。

たくさんの人と出会えたことです。保健体育サブコースや陸上競技部で出会った先輩や後輩、同期とはいろいろな思い出があります。その人たちのおかげで充実した大学生活を送ることができたと思っています。先生方にもお世話になりました。また、同じ学部の友達とは毎日笑いながら過ごし、いつも支えられていました。大好きな人たちと出会い、楽しく過ごした一日一日が思い出です。

Q2 現在の仕事を選んだきっかけは何ですか？

3年生での主免教育実習です。それまでは教員になるか悩んでいましたが、実習でこの仕事のやりがいや楽しさを知り、目指すきっかけになりました。初めての授業をするという経験を通して、子供たちの成長を実感した時、とてもやりがいを感じました。子供たちのことを考えて、たくさん悩みながらつくる授業は伝わることを学びました。授業以外にも、休み時間に一緒に遊んだり、給食を食べたり、掃除をしたりして、常に一生懸命な子供たちと過ごした時間に刺激を受けました。実習先の先生方を見ていても、この環境で仕事をしたら毎日があつという間で楽しいだろうと感じました。当時、たくさんのお話を教えてくださった配属学級の担任の先生や、同じ学級に配属された仲間には今でも感謝しています。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標を教えてください。

子供たちの頑張りや成長を感じるのがやりがいです。教育実習は短い期間でしたが、今は実際に担任を持った学級の子供たちを長い時間のなかで比べることができるので、さまざまな面で成長していることがわかります。自分の授業や声掛けが大きな影響を与えていることを痛感するので、責任も感じますが、成長に繋がっていればそれはやりがいとして自分に返ってきます。これからも子供たちと笑いながら学校生活を送ることが目標です。

Q4 岩大生へメッセージをお願いします！

私は大学での4年間、毎日楽しく生活を送ることができました。その日々があるからこそ、仕事のために友達と離れた今も頑張ることができています。ぜひ、皆さんも今一緒にいる人との時間を大切にしてください。

TOPICS

トピックス

岩手大学オリジナル・レトロクリアファイル第2弾ができました

本誌2面掲載の農業教育資料館が所蔵する盛岡高等農林学校時代の農産加工品に貼られていたラベルを基にしたクリアファイル第2弾が完成しました。2022年に第1弾が販売され、お土産としても好評を得ています。今回のデザインは、果物ジャム、でんぶん、カルミンなど飲み物の3種類で、学内カンパニー「+DESIGN」の学生が手がけました。本学のイベント参加者等へ配付するほか、岩手大学生協にて、1枚150円、3枚セット360円で販売しています。普段使いに、お土産に、来学の記念に、是非どうぞ。



新しいクリアファイルを手にする「+DESIGN」の学生

うえだめし2023を実施しました

2024年11月27日～12月1日に、岩手大学と上田商店街が協力し、上田通りにある7店舗の特製弁当（700円相当）を200円で販売する「うえだめし2023」を実施しました。物価高騰の影響を受ける学生の生活を支援するための取組です。当日は販売前から列ができるなど販売会場は賑わいました。



企画運営に参加した「まちづくりサークル NPCN」のメンバー

Information

岩手大学公式ソーシャルメディア

岩手大学ではさまざまな情報をソーシャルメディアで発信しています。ぜひチェックしてください。

岩手大学公式X
@Iwate_Univ_PR



小川学長X
@Iwateu_gakucho



岩手大学公式
YouTubeチャンネル



岩手大学の
ソーシャルメディア
アカウント一覧



岩手大学イーハトーヴ基金のご案内

岩手大学イーハトーヴ基金では、教育研究の充実、学生に対する修学支援の一層の推進のためご寄附を受け付けています。本基金は、用途を特定せずにご寄附頂く「一般基金」と、用途をあらかじめ特定したうえでご寄附頂く「特定基金」で構成されています。寄附に関するご質問は岩手大学基金室まで、お気軽にお問い合わせください。



岩手大学イーハトーヴ基金HP▲

i-Connect通信

今年はキャンパスに雪が降り積もることも少なく、岩手大学の冬の風物詩でもある雪像や、氷が張った北水の池も見られず少し淋しく感じます。テストやレポートで忙しく過ぎるこの時期は、私たちの活動も一区切りがつくのでメンバーの入れ替わりがあります。

今年度の活動を振り返ると、6月から11月にかけて県内外から多くの中学校の皆さんが岩手大学の見学に来ました。感染症が収束したこともあり、今年度は制限なく、10校以上、約700人の中学生に会いました。学生食堂での学食体験が好評です。私たちはキャンパスツアーや大学生活を紹介します。普段、大学の広さを感じることはほとんどないのですが、歩いてみると「意外と広いんだ」「ここ変わったな」と、私たちにとても新たな発見がありました。今後も中学生はもちろん、さまざまな人たちに、岩手大学や大学生活を知ってもらおう機会を増やしたいと思います。ぜひ岩手大学に遊びに来てください。(谷目)

i-Connect Xアカウント▶
@iConnect_gandai



岩手大学教員によるミニ講義を公開中！

岩手大学教員のわくわくする学問を「夢ナビ」のミニ動画で紹介しています。自分の興味・関心につながる学問への可能性をぜひ広げてください。



キーワードから学部・学科等を探してみよう！

岩手大学ホームページ内に、興味のあるキーワードをクリックすると、あなたに合った岩手大学の学部・学科等を紹介するページを設けています。ぜひご覧ください。



編集後記

今回は、知って欲しい大学内の施設として「農業教育資料館（重要文化財 旧盛岡高等農林学校本館）」を紹介しました。宮澤賢治さんが採取した岩石と作った顕微鏡用岩石薄片、その当時使っていた教材、得業（卒業）論文などの貴重な資料や高等農林学校創設当時の農業関連資料が多く展示されています。一見の価値があります。皆さん、是非、訪れてみてください。



Hi!こちら岩手大学 vol.53

2024年4月 発行
岩手大学広報室
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp
https://www.iwate-u.ac.jp/

本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。